

フェストロリウム「なつひかり」について

フェストロリウムは、飼料品質と再生力に優れたライグラスと環境ストレス耐性に優れるフェスクの特性を融合させた新しい牧草です。温暖化に伴い、近年本州以西では、多年利用の寒地型イネ科牧草の夏枯れが問題になっています。そこで、越夏性に優れたフェストロリウムの「なつひかり」が農研機構によって開発されましたので紹介いたします。

○「なつひかり」について

「なつひかり」は超極晩生のフェストロリウムです。

従来から利用されている超極晩生のイタリアンライグラスである「アキアオバ3」よりも、いもち病抵抗性と越夏後の収量性、永続性に優れた品種です。また、2～3年程度の継続利用を想定して開発されました。

○収量性について

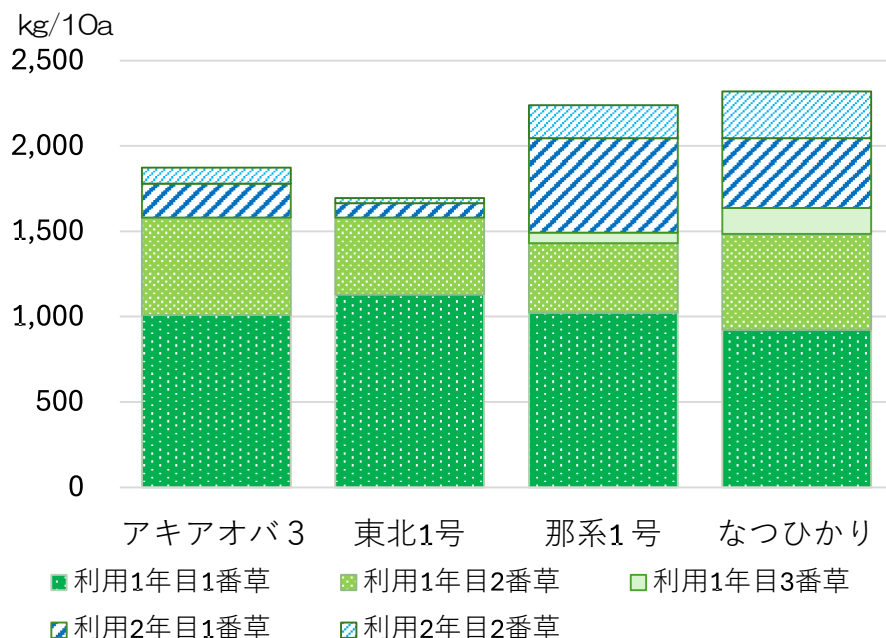


図1 品種間の乾物収量の違い

図1は、当センター(那須塩原市)で実施したフェストロリウム等4品種の乾物収量の結果です(令和6年10月3日播種、令和7年1～3番草(利用1年目)、令和8年1～2番草(利用2年目))。

比較品種である「アキアオバ3」、東北～中部地方の高冷地に向くフェストロリウム「東北1号」は、令和7年の猛暑によって2番草収穫後に夏枯れが発生し、3番草は収穫できませんでした。東北地方～比較的冷涼な温暖地向きフェストロリウム「那系1号」は、夏枯れが

起きましたが3番草の乾物収量は63kg/10aありました。

一方で越夏性に優れた「なつひかり」では、令和7年の猛暑でも3番草の収量(153kg/10a)が一番多く令和8年(利用2年目)でも草勢を維持しており、収量も安定して確保出来ています。加えて、草勢が安定していることから、ほ場の雑草繁茂を抑制しています。今後、利用2年目の3番草、利用3年目を調査する予定です。

○収穫時の注意点について

「なつひかり」は、暑さに強い品種ですが、最低気温が 20℃以上の時期に刈取ると夏枯れを引き起こす可能性が高くなります。そのため、気温に注意しながら1番草：5月下旬、2番草：6月中旬～下旬、3番草：9月下旬～10月上旬を目安に刈取りをしましょう。

○「なつひかり」の様子



利用1年目1番草
(令和7年5月15日)



利用1年目2番草
(令和7年6月20日)



利用1年目3番草
(令和7年10月9日)



利用2年目1番草
(令和8年5月25日)



利用2年目2番草
(令和8年6月23日)

○夏枯れの様子 (令和7年8月6日)



なつひかり



那系1号



アキアオバ3